

個人線量計で被ばく管理されていたすべての放射線 取扱業務従事者の皆様へ（疫学研究に関する情報）

医療関係者の被ばくは法令に基づき線量限度が定められ管理されているが、どのような医療行為・職種が高い職業被ばくに結びついているかについては、十分にわかっていません。2020年には水晶体の線量限度が引き下げられており被ばく低減の対策が必要となりますが、そのためには現状の把握が必須です。

本研究では、職種・診療科・年齢・性別などの基本情報と個人線量計で管理された被ばく線量を照らし合わせることで、現状における職業被ばくの傾向を調査し、被ばく量に影響を与える要因を抽出します。

この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、広島市民病院放射線技術部（内線3672）、または長崎大学原爆後障害医療研究所アイソトープ診断治療学研究分野（095-819-7101）へご照会ください。なお、本研究は2021年2月の当院倫理審査委員会で承認を得ています。

【研究課題名】

医療関係者の職業被ばくに影響を与える要因に関する後向き研究

【研究代表施設】長崎大学

【研究責任者】長崎大学原爆後障害医療研究所 研究責任者名 工藤 崇
（当院担当者 広島市立広島市民病院 放射線技術部 西原精人）

【研究協力施設】広島大学、福島県立医科大学、広島市民病院 等

【研究目的】

病院における職業被ばくの現状を把握し、職業被ばくの増減に影響を与える要因を同定することを目的とする。

【研究期間】承認日から2022年3月31日まで

【研究方法】

●対象となる放射線取扱業務従事者

2016年4月1日から2019年3月31日までに個人線量計で被ばく管理されていたすべての放射線取扱業務従事者

●利用する診療情報

毎月の個人被ばく線量と、年齢・性別・職種・所属部署・主な放射線取扱業務
※収集された診療情報データは、長崎大学原爆後障害医療研究所に送付してデータ解析を行います

【個人情報の取り扱い】

お名前や個人情報がでることは、一切ありません。

利用する情報からは、お名前、住所など個人を直接同定できる個人情報は削除し、長期にわたり厳重に保管します。また研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の被ばく線量記録を使ってほしくない方は、2021年9月1日までに下記研究担当者に電話にてお申し出下さい。

広島市民病院放射線技術部 担当:西原 精人 内線3672